

余呉地域づくり協議会の 組織が新しくなりました！

～多様な人が
関われる組織へ～

第 85 号

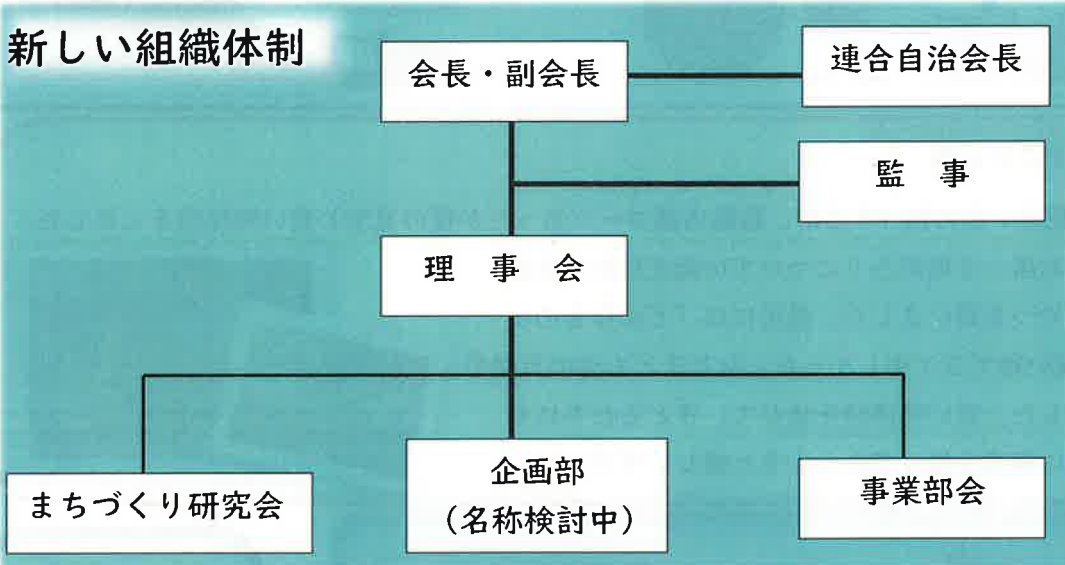
令和5年8月1日

発足から十数年が経つ当協議会も、担い手不足による役員や活動の固定化などの課題の検討をする中、組織についても話し合ってきました。

生活環境や考え方が変化していく昨今、これからの協議会の在り方を考え、多様な人々が関わりやすい環境を作るために組織改革に取り組みました。

今までの十数年にこれからをプラスし、より良い活動ができるよう取り組んでいきます。

新しい組織体制



地協改革プラン 3つの柱

～地域の経営力とフットワーク向上のため、
部会制を見直し、想いを持ったメンバーで
まちづくりを楽しく行う組織へ～

①部会の廃止

一部の部会では事業のマンネリ化に加え、アテ職のための人員確保に腐心。また各部会間での横のコミュニケーションが希薄化するなどの課題。

⇒部会制を廃止し、活動のスリム化を図り、「地協の役割」に集中します。

②理事数の削減 (20人→10人)

部会から一定数選出される方式のため、意欲よりも義務としての役職。自分が就任している事を知らない理事も存在。

⇒より主体的にまちづくりするメンバーによるフットワークの軽い理事会へ

※理事の役割…予算配分、承認、成果の検証、方向性の検討等

③トップダウン→住民の「やりたい」中心のボトムアップ

トップダウン型のまちづくりから、住民の「やりたい」を中心にしたボトムアップ型のまちづくりへ。

⇒地協はその「やりたい」を応援。そして「やりたい」を実現できる環境を整え、「できた」という体験を繰り返す。



発行
余呉地域づくり
協議会
連絡先
TEL 86-8126

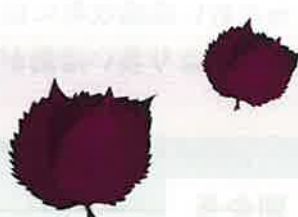
余呉の赤ジノの出荷をしました（赤ジノ栽培会）

過疎化による農業の担い手不足で耕作放棄地が年々増加の傾向にあります。

この解消に向けた農地の活用、鳥獣害に強い作物の推進、特産品の振興を目的に平成25年より赤ジノ栽培会として活動しており、今年も11軒の農家さんが生産されました。

今年も余呉の赤ジノは質・量ともに大変良いと好評価を得ております。

6月下旬～7月中旬に合わせて約6トンを福井県若狭町や木之本町、西浅井町、高月町等へ出荷しました。



買物体験 in よご認定こども園

7月10日(月) 年長児らいおん組17名が、移動店舗コープあったか便の見学と買物体験をしました。

園児たちは、移動するお店って何だろうについての紙芝居を見た後、本物のお金を使っておやつを買いました。最後には「どんなものが人気ですか」「一人で買い物できて楽しかった」など子ども達の質問や感想も聞かせてくれました。買物体験を通じて、子どもたちにも移動店舗や余呉のことに興味を持ってもらえると嬉しいです。



「早食いの害」

中之郷歯科診療所 歯科医師 林 浩志



早食いの方って結構いらっしゃるようです。こう慌しく、忙しい社会ではある程度仕方がないのかもしれませんが、でも、早食いはからだの良くないことだらけです。

- ① 肥満になる・・・一気に胃袋につめこもうとすると、そのスピードに満腹中枢がついていけず、気がついたときには腹八部どころか腹十二部、腹十五部になってしまっています。この状態がいつも続くと肥満になってしまいます。
- ② 歯や顎の骨に悪影響・・・よく噛むということは顎の発達には欠かせません。骨やまわりの筋肉も強くします。さらによく噛むということはつば(だ液)の分泌も増加させ、虫歯や歯周病にかかりにくくします。
- ③ 胃に負担がかかる・・・よく噛まなければ食べ物のかたまりが大きいまま胃に行ってしまうわけです。当然胃に負担がかかってしまいます。また、よく噛めばつば(だ液)とよく混ぜ合わせられるので胃での消化を助けることになります。

それでは早食いしないためにはどうすればよいのでしょうか。それには噛む回数を意識して増やすということです。最初10回からはじめて、15回、20回と増やしていきます。

だいたい20回～25回が理想といわれています。

余呉地域づくり協議会の

LINE公式
アカウント
が
できました

地協の活動、
イベント、地
域情報をお届け
します！

